

## 1 目的

連携市町村住民の「さっぽろ連携中枢都市圏」に対する認識やニーズ等を確認することで、第2期ビジョンをより実効性のあるものとするため、連携市町村住民との懇談会を開催し、意見交換を行った。

## 2 開催日時

	日時	場所	参加者
1	R4.11.17 19:00～	北広島市商工会	商工会青年部役員4名
2	R4.11.28 10:00～	石狩市保健福祉センターりんくる	社会福祉協議会職員2名、石狩観光協会職員
3	R4.12.1 15:00～	小樽市役所	個人事業主、喫茶室経営者、小樽商科大学学生
4	R4.12.7 14:00～	恵庭市役所	青年会議所役員2名
5	R4.12.18 9:30～	道の駅とうべつ	道の駅スタッフ2名
6	R5.1.4 18:20～	江別青年会議所	青年会議所役員5名
7	R5.2.1 10:30～	新篠津村役場	青年団役員3名
8	R5.2.15 13:30～	岩見沢市エミプラ スラブ合同会社	まちづくり会社社員2名、青年会議所役員、農業従事者

## 3 懇談会の内容

(1) さっぽろ連携中枢都市圏の取組について説明

(2) 意見交換  
〈テーマ〉

- ・ さっぽろ連携中枢都市圏及び連携事業に対する認知度
- ・ 札幌市に対するイメージ
- ・ 自分が住んでいるまちについて

## 4 参加者意見

- (1) 連携中枢都市圏の取組について
  - ・ 職員派遣は実施した方が良い
  - ・ 圏域内で利用できる旅行クーポンを発行してはどうか
  - ・ 連携市町村に主体性を持たせる取組が必要
  - ・ 連携市町村の住民を集めたワークショップを実施してはどうか
- (2) 札幌市に対するイメージ
  - ・ 買い物や食事目的で日常的に行くことが多い
  - ・ 1時間程度でさっぽろ都心部に着くので距離感を感じない
- (3) 自分が住んでいるまちについて
  - ・ 畑が綺麗に整備されているのが自慢（除雪も綺麗）
  - ・ 村の名前が知られていないのが課題
  - ・ 市特産の希少小麦の注目度が高い
  - ・ スマート農業や農機具の自動運転が進んでいる
  - ・ 白菜やお米が自慢
  - ・ 子育てしやすい  
（交通量が多くないので子供を安心して遊ばせることができる）
  - ・ 住民の郷土愛が強い
  - ・ 住みやすい  
（近隣住民との距離感がちょうどよい、コミュニティが凝縮している）
  - ・ 市民が小樽商科大学の学生を大切にしている
- (4) その他意見
  - ・ 札幌市民は連携市町村のことをどう思っているのか知りたい

## 5 第2期ビジョン策定に向けて（所感）

「さっぽろ連携中枢都市圏」及び連携事業に対する認知度は、ほぼ0%であった。今後は、認知度向上に向けた取組を実施するとともに、連携事業による行政サービスに対する住民満足度を上げる必要がある。

札幌市に対しては、心理的・物理的距離が近く、あまり市域を意識していないとの意見が多かった。また、自分が住んでいるまちが好きであり、自慢できるものがあると認識している住民が多いこともわかった。

住民だけが知っている「まちの魅力」は貴重な資源であり、圏域の魅力を効果的に伝えるためには、一般的な表現だけではなく、より細かい情報を発信することが重要である。

第2期ビジョンの策定にあたっては、今回の住民懇談会で聞き取った意見も参考にしながら連携事業の構築を進めていきたい。